

ヤラセの被害者？ 現場ビデオの中の少年の証言が“化学攻撃”にさらなる疑問を

【訳者注】これは例によって、お粗末きわまる、ヤラセ証拠づくりの露見の話である。現実には、毒ガスが撒かれたのかどうかさえ疑わしい、と言われていた、先日のシリアの事件だが、やはりそれは2重のウソだった。英政府の、スクリバリ毒ガス事件もそうだが、「彼ら」は、十分に後先を考えて行動するという事は、まずない。信憑性ということは、ほとんど考えない。crisis actor（危機役者）と呼ばれて、テロ事件ごとに何度でも出演する人たちさえある。http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160405_2.pdf ポストン・マラソン事件から、ブリュッセル・テロ事件まで、3度も出演した青年もいれば、片足を失った人たちが、血まみれになりながら楽しそうに“談笑”している、人を食った写真もある。「ホワイトヘルメット団」も、偽善集団であることを隠そうともしていない。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170504.pdf>

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170301.pdf>

我々はこのサイトで、そういう事件が起こるたびに、取り上げてきた。しかし、もっとひどいのは、世界の奴隷化された「ゾンビ」たち（The Saker）が、あてがわれたものを、そのままニュースに使うことである。

RT

April 19, 2018

<https://www.rt.com/news/424563-douma-boy-chemical-video/>

パニック、恐怖、叫ぶ大人たち、それに怯える子供たちが、東グータ市の化学攻撃と言われるものに、続いて起こったと言われる場面に、映し出されている。このビデオは、4月7日以来、いわゆるドゥーマ革命集団がネット掲載した後、主流メディアによって使い回されている。<https://www.facebook.com/Douma.Revolution.2011/videos/1739271562820418/>

この集団は、暴徒たちにつながる、あの悪名高い「ホワイトヘルメット団」と同じ組織で、報道された化学攻撃の背後の犯行者は、政府軍だったと主張している。

このフィルムの主な“出演者”の一人は、ずぶ濡れになった少年で、彼が“レスキュー隊”と称する人々に、水をぶっかけられている様子が映っている。彼らが、病院から来た医者か人権活動家か、それともホワイトヘルメット団か、どうかはわからない。後者は通常、このようなビデオをつくり、ロイターをはじめ、いろんな通信社に送っている。

ロシアの放送局 VGTRK は、このビデオの中の少年と思われる、11歳のハッサン・ディアブを発見したと言った。彼の語る話は、活動家が提供し、後に主流メディアが宣伝した話とは、食い違っていた。彼は母親と一緒に地下室にいて、彼女は食べものがなくなったと言っていた。そのとき、外で騒いでいる声が聞こえた。

https://www.vesti.ru/doc.html?id=3008643&3008643#/video/https%3A%2F%2Fplayer.vgtrk.com%2Fiframe%2Fvideo%2Fid%2F1779975%2Fstart_zoom%2Ftrue%2FshowZoomBtn%2Ffalse%2Fsid%2Fvesti%2FisPlay%2Ftrue%2F%3Facc_video_id%3D751695

参考資料：「ドゥーマの“ガス攻撃”の後の様子のフィルムは、反政府集団が、被害者の死体を運んでいる様子を示している (GRAPHIC VIDEOS)」

<https://www.rt.com/news/423968-douma-gas-attack-aftermath-footage/>

「誰かが、我々は病院へ行かなければならないと叫んでいた。それで僕たちは病院へ行った。僕がそこに着くと、何人かの人たちが僕をつかんで、頭に水をかけ始めた」と、彼は、ロシア放送局 VGTRK の、戦争特派員エヴゲニー・ポドブニーに話した。ハッサンは、自分がビデオの中の少年だと確認し、全体の事情が分かってきたとき、とても怖かったと言った。彼は現在、異状なく、2週間前に化学攻撃を受けたという症状は、全く示していない。

彼は、後に父親に発見されたが、父親はその日、どんな化学攻撃の話も聞かなかったと言った。「私は病院へ行き、2階へ上がってみると、妻と子供たちがいました。私は彼らに、何が起こったんだと訊ねると、彼らは、人々が外で何か匂いがすると叫んでおり、病院へ行けと言っていた、と言いました。病院では、ナツメヤシやクッキーを子供にくれたようです」と彼は言った。

医療職員の一人は、そのとき休憩中だったようだが、突然の人の乱入に驚いたと言った。「何人かの人がかここへやってきて、人々を洗っていました。彼らは、〈化学攻撃だ、化学攻撃だ〉と叫んでいましたが、我々には、どんな化学攻撃の兆候も見えませんでした」と、彼は言った。ただ、彼は、最近この都市にあった爆撃のために、多くの人が呼吸器に問題を起こしていた、と言った。

社会メディアの記事と、ホワイトヘルメットの報告があれば、米・英・仏にとっては、4月14日、シリアに対し、一連のミサイル攻撃を行うのに、証拠として十分だった。攻撃の通知が届いたのは、化学兵器禁止機構（OPCW）チームが、ドゥーマで化学兵器が、本当に使われたのかどうか調べるために、そこへ到着する予定になっていた、数時間前だった。

参考資料：「モスクワは、シリアのドゥーマの化学攻撃がやらせだったという“反論の余地のない”証拠をもっている——OPCW へのロシア特使」

<https://www.rt.com/news/424280-russia-evidence-chemical-attack-staged/>

「少年は、食べ物と引き換えにこの役を引き受けたのだろう。その後このビデオは、地球全体に行きわたり、米・独・仏の、シリアに対する爆撃の口実として役立つ“証拠”になった」と、ロシア外務省報道官マリア・ザハロワは、フェイスブックに書いた。

モスクワは、次の国連安保理事会で、ハッサン少年に関するビデオを見せる計画をしている、とロシアの国連特使ワシリー・ネベンツィアは、木曜日、Rossiya 1 に語った。

——以上